第三百十一號　（七面）　京都帝國大學新聞　昭和十四年十二月二十日　（毎月四回廿日發行）

人格的接觸を圖り 班別に訓育指導制

經濟學部に新設

まさに都帝を為して帝国の新たな意義を新たに「新帝大」を標榜する際に、この「新帝」をうたふ為には、先づ今の「帝」の新帝大らしからぬ面を解消するに如かずであるであらう。今の「帝」は大学の「帝」であり、今の「帝」は大学の「帝」の意味を失なつてゐるのである。

その「新帝」の「帝」とは、先づ今の「帝」の「帝」を解消するに如かずであるであらう。今の「帝」は大学の「帝」であり、今の「帝」は大学の「帝」の意味を失なつてゐるのである。

「帝」の「帝」とは、先づ今の「帝」の「帝」を解消するに如かずであるであらう。今の「帝」は大学の「帝」であり、今の「帝」は大学の「帝」の意味を失なつてゐるのである。

指導制度の實施

法學部も一回生に

法學部の「帝」の「帝」を解消するに如かずであるであらう。今の「帝」は大学の「帝」であり、今の「帝」は大学の「帝」の意味を失なつてゐるのである。

愈よ教授陣の充實へ

新學年を前に發令

田岡良一氏　法學博士で、大正十一年本學法學部卒業、昨年…

久邇宮家彦王殿下 畏し本學に御入學

物理學を御修學の思召

羽田總長謹話

學園よ、さらばー！

巣立つ鳳雛千三百

嚴肅に行はれた卒業式

（寫眞は嚴肅な卒業式當日の光景）

第十六回大會は 今秋朝鮮京城で

日本學術協會

開催日程等きまる

本學教練の振作

愈よ十五日から開始

日伊會館建設

愈よ一中峠に

新京醫大學生

本學醫院を見学

〝大學道しるべ〟

就學案内の會は十三日

數百の學徒集ひ

本學で諸學會

二月末から四月上旬にかけて

日獨學徒大會

本學も參加

第一回分の

授業料納期

新聞部員募集

京都帝國大學新聞

一部拾錢（郵送料共）
一年一圓（郵送料とも）
廣告料
一段一行金拾錢
（郵送料一ヶ月分）
一段一行金拾錢
（郵送料一ヶ月分）

人間は偶然の産物
一雄山人

所行者
學大阪帝都京
部聞新會友學
番〇八九二〇〇〇
三〇一八番京都

文房具・紙・印刷
垣見汲古堂
京都市東山区清水五丁目
電話八〇三〇番

第十六回大會は
日本學術協會
今秋朝鮮京城で
開催日程等きまる

フムボルト資金で
ドイツへ留學
吉井理學士

〝大學道しるべ〟
就學案内の會は十三日

— 功教授 —

新聞部員募集
全学部の人文科学部に新しく設置されました。
各方々から新聞部員を募集します。
新聞の編集・印刷・発行・販売・広告・事務
また、お申込み下さい。
新聞の内容は、毎月一回、十二月分は、
早くお申込み下さい。
西田時内　京大新聞部

岩波書店刊
微分幾何學
目録進呈
寺田忠彦著
定價上製四円〇〇錢
分子構造論の諸問題
水島三一郎編
定價上製三円二〇錢
日本佛教史觀
金子大榮著
定價上製四円四〇錢
言語學原論
ソシュール著
小林英夫譯
定價上製三円二〇錢
改訂新版
岩波六法書全
末川博編
岩波書店

始開本配
第一回配本第五卷
全廿八卷
集全花鏡
編纂委員
鏑木清方　水上瀧太郎　小村雪岱
久保田万太郎　佐藤春夫　里見弴
谷崎潤一郎　寺木定芳　濱野英二
豫約募集
明治・大正・昭和に獨歩する天才的作家の全貌！
泉鏡花先生の藝術は憧憬と反抗の藝術なり、その憧憬の念たるやや、あらゆる美と異とを求めて止まず遂に神秘の境に及び、その反抗の精神たるや、あらゆる社會人心の醜惡なる一面を嘲罵して止む事無し。幼時の追憶と江戸の讃美と、女人崇拜と意地と任俠と、驕ふればゆる燃ゆるが如き情慨の對象ならざるは無く、椿柄と野暮と粋と慾張と艶面は、冷嘲罵倒と溶る通命の下に在り。義理人情は作者の愛にはくくまれ、不義理不人情は作者の足下に踏躙らる。嘘は何ものよりも強く、惡家至上主義は作者が一生涯の藝術を貫いて永遠に輝く可し。憧憬と反抗の精神が、蓮調とする羅漢百篇、斷簡零墨に至る迄收めて此全集に在り。げに其の作品は色調豊に優れ恰も文字を以て描ける繪畫なり、音樂なり。古今東西斯の如く自在に文字を駆使し得たる人ありや否や。我等作者と時代を同じうする幸を有するもの、此全集を得て歓び更に新なり。内容見本進呈
水上瀧太郎氏の言葉
岩波書店

卒業生諸子に

羽田總長告辭

卒業式日

諸君の卒業に当り、諸君に対する私の所感を述べて、諸君の前途に対する私の期待を述べ、諸君の前途に対する私の期待を述べ、諸君の前途に対する私の期待を述べ

嚴肅な入學宣誓式

開講にさきだち……十一日午前擧行さる

[illegible]

宣誓式告辭

總長　羽田亨

[illegible]

學窓にある人々にこの事實を告げる

野戰病院のベッドにて……一下士官

[illegible]

或る解決

▼雪の巴里より▲　長崎太郎

[illegible]

春の六大學リーグ戦迫る

十三日　第一戦は同大と

[illegible]

物價の鰻上りに抗しきれず

學生食堂また値上

食費戰線愈よ窮迫す

[illegible]

學友會主催で□□□

新入生歡迎の夕べ

天野教授も講壇にたち

映畫・座談と多彩の催し

[illegible]

小野秀雄氏を迎へて

現代新聞論をきく

講演部名士招待講演

[illegible]

映研活動開始

[illegible]

古物取扱盛況

[illegible]

配給・紹介

[illegible]

史歴と生學

◆學生叢書第八篇◆

偉大なる世界史の轉回期に起つ青年は期せずして民族の發展と世界の興亡の跡を具さに知り、そして明日への確信を築きたがつてゐる。併し一たい歴史とは何であるか、歴史の正しい讀方とはいかに關聯するか——かうした基本問題への鍵こそ何よりも必要である。暗記の爲の教科書でもなく無機なる史料の累積でもない。眞實の歴史への活眼は本書によつてはじめて開かれ養はれるであらう。

編者　河合榮治郎

第一部　歴史學
第二部　歴史の眼目
第三部　歴史の研究
第四部　歴史に於ける自然と人間
第五部　歴史に於ける國家
第六部　歴史に於ける經濟
第七部　歴史に於ける藝術
第八部　歴史に於ける宗教
第九部　歴史に於ける戰爭
第十部　歴史に於ける人物
第十一部　歴史の教訓

日本の國家觀　川崎榮之
東洋の特性　波田野節二郎
西洋の國家觀　野村良雄
封建社會　今堀誠二
歴史に於ける自由と必然　井上清
歴史の眼目　高坂正顯
歴史に於ける自然と人間　和辻哲郎
歴史の眼目　田邊元
歴史の眼目　三枝博音
歴史の眼目　戸坂潤
歴史の眼目　三木清
歴史の眼目　羽仁五郎
歴史の眼目　清水幾太郎
歴史の眼目　高橋正顯
歴史の眼目　鈴木成高
歴史の眼目　井上清
歴史の眼目　高坂正顯
歴史の眼目

三つの讀み方

專門的・機械的・教養的

木村素衛

學生の讀書

「讀書」といっても、專門的・機械的・教養的と分けて讀むことは、人があるとはいえないであろう。

專門的の讀書は、專門の學問を研究するために、その學問の文獻を讀むことである。

機械的の讀書は、ある目的のために、ある文獻を讀むことである。

教養的の讀書は、教養を高めるために、教養書を讀むことである。

これらの讀書の種類は、それぞれ、その目的に適した讀書の方法があるであろう。

專門的の讀書は、專門の學問を研究するために、その學問の文獻を讀むことである。

この場合、その文獻は、その學問の中心問題に關するものであるから、その學問の中心問題を、自分の問題として、自分の問題として、自分の問題として